

広報 なかわだ

第 350 号

11 月の予定

教会委員会	11 月 9 日
典礼委員会	11 月 2 日
子供のミサ	11 月 23 日
初聖体	11 月 23 日
聖マリアの奉獻ミサ	11 月 21 日



2008 年 11 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 20 年 11 月 2 日



死者の為に祈りましょう

主任司祭 小林 陽一



11 月は、死者のために祈る月と定められております。毎年、帰天された方々のお名前を記して祈っておりますと、その人数の多いことに驚きます。煉獄にある死者の霊魂は、清めの期間が終わるまで、神の国に入る日を待ち望んでいます。神の国に召された霊魂は、私達を見守っておられます。教会は、帰天した方との関わりは、祈りによって結ばれていると教え、死者の為に祈る私達の祈りは大切であると教えております。

キリストは、「もし一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし死ねば、豊かな実を結ぶ。(ヨハネ福音書 12 章 24 節)」と答えられました。ご自分を一粒の麦に例えて、死ねば多くの実を結ぶと言われ、十字架上で亡くなられ、復活の恵みと聖霊の恵みを示して、豊かな実を結びました。このキリストの十字架上の死によって、神を信じる者は、自らの罪の赦しを、赦しの秘跡を受ける形で、受けられるようになりました。また、キリストご自身の、死を覚悟した上での最後の晩餐によって、神を信じる者は、ご聖体の秘跡を通して永遠のいのちをいただくようになりました。

キリストの死と復活は、救いの歴史の中のいちばん大事な出来事です。なぜならば、キリストの十字架上の死と復活が与えられたことにより、神を信じる者が、神に近づけていただけ、聖化される生き方ができるようになったからです。

11 月、帰天した人のために祈りを捧げるとき、生ける人と死せる人に大きな恵みを与えたのは、十字架上で死を迎えたイエス様であることに気付きたいものです。



典礼こよみ (11 月)

日 曜		ミ サ ・ 勉 強 会	備 考
1	土	主日ミサ (18 時より) < 諸聖人 >	掃除 2 G (9 時 30 分)
4	日	死者の日	典礼委員会
5	水	聖書勉強会 (10 時より)	
7	金	初金ミサ (10 時より)	掃除 1 G
8	土	主日ミサ (18 時より)	
9	日	ラテラン教会の献堂	教会委員会
12	水	聖書勉強会 (10 時より)	
15	土		掃除 3 G (9 時 30 分)
16	日	年間第三十三主日	
19	水	聖書勉強会 (10 時より)	
21	金	聖マリアの奉獻ミサ (10 時より)	
22	土		掃除 4 G (9 時 30 分)
23	日	王であるキリスト	初聖体式
26	水	聖書勉強会 (10 時より)	
25	土		掃除 2 G (9 時 30 分)
30	日	待降節第一主日	



森脇 信行

フランスでの子育ては厳しいものです。親は絶対的権力を持っていて叩いてでも親のいうことをきかせようとします。そして、この厳しさの裏側にあるものが、子供への真の愛情と衣食住の保証、安全への配慮だと思います。また、社会的な構造の中でも親の子供への責任というものが要求されます。そして、これが一つの社会的常識、ルールとなっています。

幼稚園から小学校5年生まで学校への送迎は親の義務です。親は子が小学校5年生までは1日に4回家と学校の間を往復します。安全に対する親の義務を果たしているわけです。

森脇家では真美が現地の幼稚園に通っていました。朝8:30始まりで8:20分から30分の間に真美を幼稚園まで連れて行きます。11:30に午前中の授業が終わり、昼食のために真美を引き取りにいきます。14:00に午後の授業が始まるので13:50から14:00の間に連れて行きます。17:00に授業が終わって引き取りにいきます。また、親が行かなければ学校は子供を渡しません。都合が悪くていけない場合は手続きをして代理人に迎えに行ってもらいます。誘拐、その他の危険があるからです。日本の場合は安全という意識が強すぎて、とんでもない事件がたまに起きてしまいます。

さらに厳しいのは子供を連れて親が散歩をしている時に、ちょっと手を離れたすきに車道に子供が飛び出して事故にあった場合、警察は親の過失の方が大きいと判断することがよくあります。フランスは日本よりも歩行者優先の考えが浸透しているのですが、子供の事故に関しては「子供の監視を怠った」という理由で親の責任が問われるのです。

親の持っている責任は「安全」だけではありません。社会的ルールやマナーを教えることも問われます。電車やバス、その他公共施設の中で泣きわめいたり、走り回ったりする子を見かけません。もしいたら、そこにいるすべての大人が注意するだけでなく、親に対してブーイングを行うと思います。これも親の責任を問う表れだと思います。

その他忘れてはならないのが「伝承」の責任です。親から子へ、母親から娘へ伝えられていく家庭の味というものがああります。日本の場合この家庭の中の伝承もだいぶ少なくなってきたように思えます。



10月の要理学校だより

◆ 親の集い 10月19日(9名) ◆

10月の活動報告

◆ 10/19 「バザーってなんだろう？」 石井リーダー

まず、子供たちに「自分のお小遣いをどのように使いますか？」と問いかけてみました。世の中にはお小遣いをもらえない、それ以前に、生活していくお金を持っていない人がたくさんいることを伝えました。自分だけではなく周りの人にも目を向けられたらいいねと……。聖書のマルコ10の21、22を読み、イエズスさまも同じことを言っているよと話しました。最後にバザーとは何か、私達に何ができるかを、自分なりに考えてみようとい問いかけてみました。(Y.I)

クリスマス聖劇の配役決め 森脇リーダー

今年ももうすぐクリスマスがやってきます。昨年の聖劇のビデオを見ながら色々な役柄を思い出しました。子供たちは自分の演技ににやにやしなうが恥ずかしそうに見ていました。主役のマリアさまの役が決まりません。どなたかやっていただける方、いらっしゃいませんか？

◆ 10/26 バザーに参加、お手伝いをしました



11月の活動予定

- ◆ 11/ 9 七五三のお祝い
- ◆ 11/16 初聖体の準備、リハーサル、歌の練習
- ◆ 11/23 初聖体子供ミサ、お祝いのパーティー
- ◆ 11/30 馬小屋、ツリーの飾り付け、劇の練習開始

その他

- ◆ 11/ 3 教会学校リーダー研修会 二俣川教会にて
- ◆ 来年度要理学校の運営について話し合いました

臨時信徒大会報告

議題： トイレの改修について

08.10.19 (日) 10:00 ~ 12:00 於中和田教会 聖堂 出席者：33 名

■ 小林神父様挨拶

教会の建物も長く使用しており色々改善すべきところが多い。ここをこのようにして欲しいというところを今日議論して欲しい。

■ 小野委員長挨拶

中和田教会も創立 35 周年になる。色々不都合なところも出てきている。福島さんが主催されてきた教会建物を考える会にて検討してきたことをこの大会にて御審議頂きたい。

■ 議 事

1. 教会建物を考える会からの経緯説明（福島さん）

2008 年度予算では、各種約 300 万円の予算を計上した。しかし、優先度を考慮して実施したのは、エアコンの代替、床下アスベストの分析、耐震チェック等であり、約 105 万円を使用した。またこれ以外にも多くの事項を検討してきた。この中で優先度の高いものから着手・実施してきたが、トイレの改修が緊急性も高くまた大がかりで費用もかかることから、本日皆さんに諮ることとなった。

2. トイレ改修の提案（福島さん）

① トイレ改修の必要な理由

- ・女子トイレが狭く使い勝手が非常に悪い
- ・男女とも入り口の段差が大きく危険でもある。

② 改修内容

- ・廊下・トイレ床面のレベルを合わせ、転倒防止を計る。(車椅子利用も可能となる)
- ・便器の小型化・使い勝手の向上を含めた、水周りの改修を行う。

③ 改修費用： 女子トイレ：284 万円、男子トイレ：218.4 万円、合計：502.4 万円

④ 改修業者（案）： 金子産商株式会社（水道工事で実績あり）

⑤ 実施手順

財務状況もあるので、まず女子トイレから始め、工事結果・使い勝手様子を見て男子トイレを次年度以降実施。

⑥ 工事内容（詳細図面省略）： 車いすで入れるよう段差の解消、入り口幅の拡張、トイレの拡張、レイアウトの変更

3. 教会建物を考える会についての補足説明（下村さん）

教会建物を考える会を 2008 年 2 月に設立し、下記視点から改善すべき点を検討してきた。

- ① 防犯対策
- ② 災害対策
- ③ 建物自体が高齢者対策が不十分
- ④ 使い勝手
- ⑤ 設備の劣化

緊急性の高いものもあり、優先度を設定し、検討してきた。この内 A ランクは、下記の諸項。

- | | |
|---------------|-----------|
| ・聖堂建物の法定点検 | ・司祭室設備の問題 |
| ・ガス漏れ防止検知器の設置 | ・聖堂内設備の問題 |
| ・耐震強度の点検確認 | ・オルガンの故障 |
| ・床下アスベストの点検 | ・冷暖房設備劣化 |
| ・車椅子向けに段差解消 | ・電球切れ |
| ・難聴対応 | ・教会案内板設置 |

これらの多くは 07、08 両年度にて対応済みであるが、トイレを含む段差問題、オルガン劣化は緊急残課題である。

その他、B・C ランク（検討中）の項目も多くあり、対応も難しい面がある。皆様のご意見・ご指導を頂きたい。

また、諸問題の解決には「費用も嵩む」ことから、是非皆様のご家族とも話し合ってもらいたい。

4. 財務状況の説明（甲斐さん）

必要総額 500 万円に対し、建設会計の残額は現在総額 600 万円。

建設会計は年額 130 万円の献金、バザー他からの充当等 50 万円程度でまかなわれている状況でもあり、今回は現在額の内 300 万円を使用し、次年度の緊急対策金として 300 万円の繰越金とするのが妥当と考える。

5. 質疑、意見

Q. 車椅子の幅は？ 廊下はこのままで曲がり角大丈夫か？ またトイレのスライドドアが、有効幅が 70cm ぐらいになるのでは。またどうせやるなら全体的に見直して、集会室も含めて全て対応すべきでは。いずれにせよ着工してしまってから気づいても遅いので、十分な検討が必要。（山本さん）

A. 廊下の角も大型電動椅子でなければ大丈夫。

大型電動椅子には全面改良しないと対応できない。大型の電動椅子からは通常の車椅子に乗り換えてもらい、座ったままトイレに行けるようにと考えている。ドアの有効幅の確保は業者と検討する。

集会室も含めた全対応はまだ考えていない。非常に費用もかかる見込みで、今回はそこまでは考えていない。今後の検討としたい。

Q. 菊名教会は車椅子用トイレはどのような考え方になっていたか？（小林神父）

A. 男女トイレの他に専用の大きい車椅子トイレがあった。

Q. 女子トイレの最奥部等に車椅子用のトイレを一カ所新設、今のトイレは段差をなくす程度の改良にするという案ではどうか。（岩崎さん）

A. 階段下で、高さが取れず、スペース確保の面で困難。現在の女子トイレを男女共用にして男子トイレ側にスペースを捻出するのも抵抗感がある。

Q. 女子トイレの外側の扉は必要あるのか？ 男子トイレも同様。（鶴田さん）

A. 入り口の扉はやはりあった方がよいのではないかとよくよく検討しないとあとで苦情が出るのでは。十分なスペースがあれば、駅やデパートのようなドア無しの考え方でもできるが、スペース不十分で難しい。

Q. オルガンは大丈夫か。緊急度はどちらが高いのか？（鶴田さん）

A. 修理しているがまだ完全には直し切れていない。緊急度は高いと考えているが、だましだまし使っている状況。今回はまずはトイレからさせてもらおうかと考えている。

またオルガンは、建設会計でなく、典礼関係として、一般会計・祭儀費にて処理する方法も考えられる。

Q. 男子トイレは改修しなくても良いのでは。車椅子は女子トイレに設置する車椅子用トイレに入ってもらえば良いのでは。（山本さん）

A. それもあるが、廊下側に手を入れるので、男子側の段差も大きくなる。少なくとも段差解消の手入れは必要。それだけで済ますことができれば費用は安くなる。

まず女子を実施し、様子を見て、皆さんの意見も聞きながら、男子を実施したい。

Q. 段差解消で底上げになった結果、天井高不足にならないか？（山本さん）

A. 大丈夫。

Q. 金子産商以外に当たる必要はないか？（小林神父）

A. 実績があり信頼できるので相談してきたが、他に良いところをご存じであれば、是非皆さんから紹介して欲しい

6. 信徒大会決定事項

以上の議論を踏まえ、下記のとおり、信徒大会としての意見が集約された。

まず女子トイレの改良を先行して実施する。

細部については建物を考える会にて検討していくので、是非多くの方々の会への御参加をお願いする。また細部は建物を考える会の検討にまかせる。

以上。

第 17 回 湘南短期キリスト教セミナー

『あなたは大切なひと』

日時： 2008 年 11 月 29 日（土） 13：30 ～ 15：30

会場： カトリック大船教会

参加費： 500 円（ミカエラ寮への寄付を含む）



13：30 ～ 14：30 【この一人を大切に】

ー キリストの愛と創立者聖マリアミカエラの精神に基づいて、人間尊重「この一人をたいせつに」をモットーに支援に努める現場からの報告 ー

講師： 澤 信子（社会福祉法人礼拝会 ミカエラ寮施設長）

14：30 ～ 15：30 【信じぬくこと、希望すること、愛すること】

ー ペトロ岐部と 187 殉教者の現代へのメッセージ ー

講師： 平林 冬樹（イエズス会司祭・日本カトリック司教協議会 列聖列福特別委員会秘書）

詳細は、ポスター、チラシをご覧ください。



中和田教会バザー 平成 20 年 10 月 26 日

心配された天気も何とかもって楽しい一日になりました。 皆様、お疲れ様でした。



委員会だより

△10月12日(日) 11名出席▽

審議事項

- ◆(1) 教会委員会の運営方法
09年度教会委員の選出…候補案の提出、今後話し合い、11月に公示。
- ◆(2) バザー開催について
準備は例年通り進んでいる。
売り場の人は名札を付け、チーフの人はミサ後自己紹介
教会の腕章を付け見回る(委員長他)
けがや急病対応で休息所を用意
前日25日(土)pm4にミサ
教会営繕計画
- ◆(3) 10/19の臨時信徒大会にてトイレ改修について了承を得る。
バリアフリー等でまず緊急に対処すべき女子トイレを、様子を見て翌年男子トイレに着手としたい。
オルガンも優先度が高い。
建物を考える会では他にも改修項目を多数検討しており、優先度に応じ段階的に対処していきたい。
- ◆(4) 小教区教会と第5地区の将来展望
これまでの中和田教会での話し合い結果をまとめたたたき台を委員長より提示。このような事項を話し合う場をどうするかも課題。
他教会より試案も出ており、今後共同宣教司牧委員会にて議論。
- ◆(5) 11月の予定
七五三 11/9
初聖体 11/23 教会から本とおメダイ、パーティーは要理学校予算で
- ◆各グループ連絡・報告事項
a. 典礼G…別紙報告書(略)
b. 財務G…予算は順調に推移
c. 福祉G…教会に来られない方に広報を送った。
- ◆小林主任司祭より
11/3(月)am10~pm4迄祈りの園ペトロ神父様のミサと祈りが中和



田教会で開催。手伝いが必要。
横浜司教館への09年度中和田教会予算書を11/末までに送付。各Gから11/15まで小野委員長に提出。
ペトロ岐部と187殉教列福式特別献金の依頼
泉区民クリスマス2008 12/23と中和田行事が重ならぬよう調整をう

08年7月委員会後記 小野委員長

■第秋の重要行事の一つである教会バザーが10月26日に開催され、無事に盛会裏に終了出来た喜びを皆様と分かち合いたいと思います。当日は地域の皆様や他教会、修道会からも多くの方々にお出で頂き、いろいろな形で交流が出来たことを嬉しく思います。長い間、行事グループ、バザー委員会を中心に多くの信徒の皆様がバザーの準備

備を重ねてこられた賜物だと思います。どうも有難うございました。バザーは、売上云々よりも「地域の方々や他教会の方々との交流の場」として重要な役割を担っており、来年以降も続けていかねばならない重要行事です。運営面で改善すべき課題もいろいろあると思いますが、知恵を集めて、より良い形で来年に繋げていきたいと思っています。信徒の皆様のおかげで協力をお願い申し上げます。本年はとくに、若い世代の信徒の皆様が多く参加してくれたことが印象的でした。是非、幅広い世代が集結して教会活動を活性化させていきたいと思います。

お読みになった方も多いと思いますが、そこには当教会の上野厚氏が神奈川県警科学捜査研究所でラIFワークとされてきた心理研究と、同氏が20年も前から主張してこられた「社会に適応できない人たちのための、社会の仕組みづくり」について深く言及されておりました。これを読むと、改めて「地域に根ざした、開かれた教会」のなすべきことのヒントがあるように感じました。皆様はいかがお感じになりましたでしょうか。

お知らせ

帰天

9月25日

ルルドのマリア 佐野久美子さん



社会 3

犯罪は全般に都市で多く、農村では少ない。ところが戦後のある時期まで放火は全く逆で、「田舎犯罪」と言われた。日本犯罪学会の元会長、中田修さん(86)(東京医科大学科大名誉教授)の述懐だ。

社会部長
* 棚瀬 篤



無差別放火の「闇」

IFワークになった。勤務先でいじめられ、鬱憤を晴らすと15件の放火を重ねた若者がいた。妻子が面倒をみてくれない寂しさから、空き家や路上の段ボールに次々と火をつけた初老の男もいた。「周囲との人間関係を構築できない孤独な人間が、不安や不満を解消しようと無差別放火の言葉に、最近の無差別殺人事件でクローズアップされた「誰でもよかった」という供述を重ねる方もいるだろう。現代の忌まわしい風潮の萌芽を放火犯にみるのは見当外れだろうか。

社会に適応できない若者の家を相談員が訪れ、孤独感を解消して無謀な犯罪に走るのを防ぐ―相次ぐ若者の事件などを受け、政府はそんな制度の導入を検討している。上野さんの主張を後追いするかどうかのような動きではないか。

終戦間もない時代に放火犯の研究に打ち込み、論文も発表している中田さんによれば、当時は動機が多くが「怨恨」と「憤怒」。人間関係が濃密な農村の住民が、特定の人の恨みや怒りを抱き、家などに火を放つ。それが典型的なパターンだった。中田論文の指摘とはタイプの異なる放火犯がいる―神奈川県警科学捜査研究所でポリグラフ検査を担当していた

放火された個室ビデオ店が入っていた雑居ビル



上野さんが何より驚いたのは、その民家と工員との間に何の関係もなかったことだ。都市部での放火が増え始めた時期。「どこでもよかった」という供述は衝撃的だった。以来、放火犯の心理研究がラ

別的に引き起こす」。2001年の退官まで事例を集め続けた上野さんは、都市型放火の特徴をこう結論づける。「どこでもよかった」という放火犯の言葉に、最近の無差別殺人事件でクローズアップされた「誰でもよかった」という供述を重ねる方もいるだろう。現代の忌まわしい風潮の萌芽を放火犯にみるのは見当外れだろうか。